

会議要旨

会議の名称	世田谷区インクルーシブ教育ガイドライン作成委員会（第4回）
開催日時	令和5年12月27日（水曜日）午後1時30分から午後3時30分まで
場 所	教育総合センター 研修室 ほし
出 席 者	東京家政大学教授、東京都立久我山青光学園校長、世田谷区立小学校長会代表、世田谷区立小学校及び中学校特別支援コーディネーター、世田谷区立教育総合センター長、学校経営・教育支援担当副参事、支援教育課長、障害施策推進課長、人権・男女共同参画課長、教育指導課統括指導主事、支援教育課指導主事、教育指導課指導主事、支援教育課副係長、支援教育課係員
欠 席 者	東京学芸大学附属小金井小学校教諭、東京都立光明学園校長、世田谷区立中学校長会代表

会議概要・質疑事項・回答内容

1 「せたがやインクルージョンプラン ―世田谷区障害施策推進計画―」について

現在策定中の令和6年度から令和8年度の障害施策推進計画である「せたがやインクルージョンプラン ―世田谷区障害施策推進計画―」の概要についての説明。

2 「世田谷区多様性を認め合い男女共同参画と多文化共生を推進する条例」について

「世田谷区多様性を認め合い男女共同参画と多文化共生を推進する条例」の概要、条例や計画に基づき区が目指すインクルーシブな地域共生社会のイメージや課題についての説明。

3 区立学校における取組について

大阪府豊中市南桜塚小学校の視察報告及び、肢体不自由学級と知的障害学級を併設する区立小学校や自閉症・情緒障害学級を設置する区立中学校における、交流及び共同学習の実施についての説明。

4 ガイドラインの構成案についての意見交換

- 障害のある子どもから、自分らしさ、自分が好きなこと、楽しいこと等を引き出すには相当なスキルがないと難しい面がある。その方法や手段を議論する必要があると思う。
- 「自分のしたいことを叶える」「自分の思い描いた未来を叶える」「自ら学びのあり方を選ぶ」の3つの観点のバランスやそれぞれの意味について、教員や子ども任せにせず整理が必要ではないか。
- 「一緒にいることで学び合う」が大事だと思う。一緒にいるからこそお互いにできることが増えていく。
- 「自分らしさ」は大事な言葉だが、一方で「らしさ」に縛られる子もいる。自分の思い描いた未来は、変容させながら叶えられる、安心して迷えるといった点も含めた方が良い。
- 学校は成長・発達途上の子どもがいる場所であり、「自分のしたいことを叶える」よりは、「知る」とか「探す」といったことではないか。

- 今回の提示された定義は目標に近いと思われる。定義であれば状態や基準性を示す必要があるので、定義として入れるべきか、概念とすべきかといったことを検討してほしい。
- 通常の学級に在籍する配慮が必要な子どもについても、個別指導計画を必ず作成するように求めるなど、共同的な学びも行いながら、個別の学びを追求していくようなことを、具体的にこのガイドラインの中で示せるかが課題になるのではないか。
- 基本理念に「お互いが（多様性）を尊重する」という要素を入れた方が良い。
- 基本理念は「互いを尊重し、違いを認め合う」「一緒にいることで学び合う」「自ら学びのあり方を選ぶ」の3つが、「安心」の大きな枠組みの中で行われ、そこから「自分のしたいことを知る、見つける」になるのではないか。そして、定義（目標）に多様性を認め合うことを含め、最終的に「自分の未来を思い描く」につながるのではないか。
- 地域社会の図については、それぞれの機関が他の機関とどのように連携していくかを示し、図のあとに関係機関ごとの内容や業務を示せば良いと考えられる。

5 事務連絡

- 次回も引き続き基本理念、目標及びガイドラインの構成について意見交換を行う。

事務局

教育指導課・支援教育課